

自己点検・自己評価報告書

令和3年3月31日現在

I S I ランゲージスクール京都校

令和3年3月31日作成

目 次

第 1 設置者及びマネージメント		基準 3 財務	9
第 1 設置者及びマネージメント	1	3-1 財務状況	9
基準 1 理念・教育目標	1	第 1 設置者及びマネージメント	10
1-1 理念・目的・育成人材像などが明確に定められているか	1	基準 4 教育環境	10
1-2 教育目標が明確に定められているか	2	4-1 校地・校舎	10
1-3 学校の将来構想を抱いているか	3	4-2 施設・設備	11
1-4 理念と教育目標が教職員、学生に周知されているか	3	第 1 設置者及びマネージメント	13
第 1 設置者及びマネージメント	5	基準 5 安全・危機管理	13
基準 2 組織	5	5-1 健康・衛生	13
2-1 組織体制	5	5-2 危機管理	14
2-2 教員組織	6	第 1 設置者及びマネージメント	16
2-3 事務組織	6	基準 6 法令の順守等	16
2-4 採用と育成	7	6-1 法令の順守	16
第 1 設置者及びマネージメント	9		

第 2 運営に関する事項	17	9-4 授業評価.....	28
基準 7 運営全般	17	第 2 運営に関する事項	31
7-1 組織的な運営.....	17	基準 10 学生支援	31
7-2 納付金.....	18	10-1 支援体制.....	31
7-3 情報の共有化及び発信.....	19	10-2 日本社会を理解し、適応するための支援.....	31
第 2 運営に関する事項 エラー! ブックマークが定義されていません。		10-3 生活面における支援.....	32
基準 8 学生募集 ..エラー! ブックマークが定義されていません。		10-4 進路に関する支援.....	33
8-1 募集方針.....エラー! ブックマークが定義されていません。		10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援.....	35
8-2 募集活動.....エラー! ブックマークが定義されていません。		第 2 運営に関する事項	37
8-3 入学選考.....エラー! ブックマークが定義されていません。		基準 11 教育成果	37
第 2 運営に関する事項	24	11-1 成果の判定.....	37
基準 9 教育活動	24	11-2 卒業生の状況の把握.....	38
9-1 教育計画.....	24		
9-2 実施.....	25		
9-3 成績判定.....	28		

第1 設置者及びマネジメント

基準1 理念・教育目標

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

1-1 理念・目的・育成人材像などが明確に定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	5	学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などは、当校のホームページ、スタートブック、教職員ガイドブック、入学案内書に明示されている。	教職員の意識統一のために共有する研修会などの定期開催を計画的に行う。
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	5	2018年度から2020年度の中期ビジョン戦略マップで、戦略目標・数値目標を達成するためのKPIを確立している。	2018-2020年度の中期ビジョン戦略マップより3か年の反省をし、不足した部分はしっかり修正していきける2021-2023年度の中期ビジョン戦略マップを作成した。 具体的な計画・方法は実行を伴わないと意味がないので、その実行力をきちんと人事評価することでPDCAサイクルを循環させる。
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5	3か年に1回時代の変化に対応し、中期計画を立て、本校のバランススコアカード、戦略目標を立てている。	法務省の政策や社会のニーズなど、常にアンテナを高く張る必要がある。

1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	5	教職員には学内に理念が記載された額を掲示し、また教職員ガイドブックにも提示、それに沿って学内で研修会も行い、周知している。学外には学校案内書・ホームページで広く公表している。	HP に掲載し、広く公表はされているが、新規入社 の教職員にも計画的に周知していく研修計画が必要。
---	---	---	--

1-2 教育目標が明確に定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-2-1 学校の特色として挙げられるものがあるか	4	<p>日本・京都の文化を理解しながら日本語教育をする、という課外活動を取り入れた授業を月に1度行っている。</p> <p>短期生のみ参加できる、短期オリジナルコース（文化のコース）があるが、これは本年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、通年中止となった。</p> <p>ISO29991 評価にて短期オリジナルコースの文化体験授業は高評価をいただいているので、今後はより多くの日本語学習者に知っていただけるよう周知を図りたい。</p>	<p>学生全員がすべて満足できる文化授業の提供をするということは当然無理ではあるが、より多くの学生が現実的に知りたい、興味があるという文化の授業の提供にさらに努めていきたい。</p> <p>また ISO で高評価となった短期オリジナルコースの文化体験授業を今後周知していく方法を検討したい。・入国制限内下でも可能なオンライン対応の企画を提案・実行する予定である。</p>

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-3-1 学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	5	時代の変化に合わせて 3 年ごとに中期計画を策定し、そこから戦略マップ・戦略目標・KPI そして個人目標へと落とし込んでいる。留学市場、社会的な外国人人材への期待、海外の日本語学習ニーズ等を分析し、グループ校の強みを活かした、日本語学校・専門学校・大学の一貫体制を整える構想がある。	外国人の進路として、最近では就職も増えてきている。特定技能資格も日本語能力が N4 以上あり、専門知識（試験取得）もあれば、取得できるようになってきており、時代の流れとともに学生への案内もしっかりと説明が出来なければならず、各職員の知識の習得の場を提供するということで今年度は行ってきたが、知識を入れるだけでなく、それを活用するというさらなる研修などを計画的に検討し、実施していく予定。

1-4 理念と教育目標が教職員、学生に周知されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-4-1 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	4	毎年、年に 2 度行われる全社会議の決定事項を常勤職員だけでなく、定期的に行う非常勤講師ミーティングの際に、非常勤講師に対してもしっかりと落とし、学校として同じ方向を見て学生指導ができるよう、情報共有に努めるようにしている。教員用ガイドブックも作成し、非常勤講師にも必ずお渡しし、最低でも年に 1 度はガイドブックを元に研修するようにもした。	2020 年度までは、全社会議内容を周知する非常勤講師を含めた校内の全体的な会議が年 1 回のみであったが、上半期、下半期の方針を細かく伝えるため、2021 年度から年 2 回を予定している。

総括	課題及び改善内容
<p>学校の運営方針をはじめとする、理念や教育目標などをしっかりと各自が持ち、また今年度からは学生にもそれら学習目標を提示することを試みた。そうすることで軸がぶれることなく、しっかりと定着したサービスが提供されると認識し、各自、それに向かって自分の力で出来る行動を行うことの指標とよりなっていると感じる。</p> <p>ただ、日ごろの目の前の業務に忙殺され、この件について、振り返る機会の提供を意識して行わないと、持続しないと考える。そのため、教職員の事業計画にもこれら理念や教育目標をしっかりと意識した取り組みを網羅させることで、常に教職員が指標からぶれることなく業務が進められるよう、上長も意識しながら部内全体の意識統一を図る工夫を入れた。</p> <p>今現在は、おおむね計画的に進めることが出来ているが、埋もれることなく、今後も定期的に意識統一する機会を作っていかなければならないと考える。</p>	<p>各担当者が学校の運営方針をしっかりと認識しながら業務を進められるよう、それぞれの事業計画の中にその取り組みをしっかりと明示しながら進められたが、日々の業務の忙しさから振り返る時間をしっかりと作らないと、どうしても意識が弱くなる現状がある。</p> <p>今後はその時間をどういうタイミングで作っていくかが、検討事項であるが、取り急ぎ意識統一の機会が今年度までは年に1度と決め行っていた非常勤講師も含めた全体会議を、来年度からは年2度実施することとした。学生に対する意識付けも授業内にてどれだけ行っていけるか、更に検討を継続する。</p>

第1 設置者及びマネジメント

基準2 組織

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

2-1 組織体制

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-1-1 設置代表者及び経営担当は基準要件に適合しているか	5	基準要件に適合している。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて選定している。特に問題なし。
2-1-2 事業規模に応じた組織体制になっているか	5	基準要件に適合している。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて選定している。増員に向けての補充も計画的に行っている。
2-1-3 受入れする学生の言語対応可能な組織になっているか	4	2020年度は言語対応者を増員したことで、常に対応できるような体制にすることができた。 ただ、言語対応は可能であるが、学生の人数と言語対応者の割合があっていない現実もまだ否定できない。	英中韓の言語対応者の増員により、現時点で言語に関する問題はほとんど発生していない。 今後、学生数増加に伴う、補充については検討を継続する。(特に中国語)

2-2 教員組織

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-2-1 校長、主任教員及び教員は基準要件を備えているか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて選定しており、基準要件を備えている。	新規採用時も基準に該当する職員の採用を心がけながら、法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて選定している。
2-2-2 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限が明確に定められているか	5	社内で行う人事考課にもそれぞれの役職に伴う職務内容の範囲が明示されている。 また、社内システム（E-System）、職務基準書・分担表にも役職ごとの権限が定められている。	時代、また学校規模による職務権限を随時見直し、職員への共有を図っていかねばならないと感じる。
2-2-3 職務分掌と責任がステージごとに明確にされているか	5	社内で行う人事考課にもそれぞれの役職に伴う職務内容の範囲が明示されている。 また、社内システム（E-System）、職務基準書・分担表にも役職ごとの権限が定められている。	2-2-2 と同様。

2-3 事務組織

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-3-1 生活指導責任者、入管事務担当者等を含む各業務の担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限、承認プロセスが明確に定められているか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて選定している。	各業務の責任と権限、承認プロセスを浸透させるべく、研修を含めた指導を継続的に行うべきである。
2-3-2 各業務の担当者が学生及び教職員に周知されているか	5	入学式、オリエンテーションで職員紹介をしっかりと行い、学生に周知している。教職員に対しては講師ミーティングで周知している。	昨年度から検討は進めたが、個人情報開示について、決め切れておらず、昨年同様の取り組みとなった。今後もさらに検討をしていく。

2-3-3 入管申請取次者、防火防災管理者を設置しているか	5	それぞれ、しっかりと講習を受け、その担当者が届出を行い職務についている。	今後は各有資格者を増やしていき、事務局全員が知識を有するよう、努力したい。
2-3-4 職務分掌と責任がステージごとに明確にされているか	5	職務分担表に明示され、明確にされている。	今に満足せず、適宜見直しが必要。

2-4 採用と育成

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-4-1 教職員の採用制度は整備されているか	4	適性検査、資格証の確認、模擬授業、採用面接事前質問シートなどを確認しながら面接も行き、社内申請手順一覧により、採用手順もしっかり決まっている。	採用時の模擬授業に対する授業見学シートの内容が数年変わっていないため、再度の検討が必要。来年度の取り組みとする予定。
2-4-2 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	4	人材育成計画（管理部）と学校現場にある育成研修に従って、計画的に行われている。	今年度は、本社を中心に未経験の専任職員への育成をスケジュールに則り順次行うことができた。来年度は内容の充実・対象者の拡大を行いたい。また非常勤講師に対する研修についても経験によって段階的に行えるような標準化を目指す予定。
2-4-3 人事評価制度は整備されているか	5	人事評価規定、給与規定、非常勤講師報酬制など、整備されている。 昨年度課題とした日ごろの業務に努力している教職員に対して、せっかく人事評価制度をしっかりと行っているのに、それに基づくフィードバックを評価時のみでなく、随時、後押ししてあげられるような体制をとっている部分は今年度もう少し詳細に各個人に対しての人事考課 F B の行い方を今年度精査した。	来年度からは更に細かく各担当者をフォローできるよう、新しく個人シートを導入し、運用しようと予定している。

2-4-4 昇進昇格制度は整備されているか	5	2-4-3 同様に整備されている。	各個人がこの制度を理解し、各自がステップアップできるよう、上長がフォローアップできるよう、体制作りを努力したい。
2-4-5 賃金制度は整備されているか	5	2-4-3 同様に整備されている。	昨今の事情に合わせ、随時改訂の検討が今後も必要である。

総括	課題及び改善内容
<p>組織体制に関しては、積極的に採用、育成を始め、計画的に行えるよう努力してきた。育成計画も随時しっかり制定を行い、また、本社で対応する研修内容も増えてきているため、育成は充実し始めている。</p> <p>昨年持っていた、日常業務優先で研修の時間を取得することが後回しになることもあるという課題に対して、今年度はいつ、どういった研修を行うのかを最初に予定を立て動けたため、計画的に行えたと言える。今後は更に一人ひとりの年間計画がしっかりと立てられるよう、努力したい。</p>	<p>現場マニュアルがある程度増えており、これら内容を精査しながら進めてきた。まだまだ細部まで行き届いていない部分や研修したい内容などもあるため、それらを今後も作成していくことと、並行して研修も今同様、計画的に行えるよう、業務計画をしっかりと立てながら行っていきたいと考える。</p> <p>経験がない職員への育成は充実し始めているものの、中途採用者の経歴に合わせた育成は今後の課題となっている。また、現場で実際に行っている研修に関しても、本社と現場でも精査が始まり、来年度以降からどのように実施していくのかが、決定していく。</p> <p>また、各個人に早め目標設定を行わせ、必要な研修を把握させるなどの対応も検討していく。</p>

第1 設置者及びマネジメント

基準3 財務

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

3-1 財務状況

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-1-1 中長期的に学校の財務は安定しているといえるか	3	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、当初の増員計画に見合った学生数が入学出来ていない。	新型コロナウイルス感染拡大による入学辞退・延期など厳しい状況が継続しているが、コロナ過でも安定した財務状況を保てる、より工夫した授業の提供の検討など今後も学校運営の在り方をさらに検討する必要がある。
3-1-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	年に2度行われる全社会議と毎月行われる幹部会議にて会社の予算・収支計画について、予算書・予実乖離分析報告に基づき、常に報告しており現状把握が出来ている	年度初めに立てる予算書と大きく乖離の出た売上・経費などについては常に分析をし、問題直視をしながら来年度の必要性をさらに検討していかねばならないと考える。
3-1-3 財務について会計監査が適正に行われているか	4	各部門にて処理されたものを本社で一括処理、その後会計事務所を通じ完成させ、社員に対してある程度ディスクロージャーされている。	会計監査は会計事務所に委託し行っているが、実態の妥当性確認に関しては現場に監査を入れ詳細確認を行うなどの対応が今後は必要。

総括	課題及び改善内容
<p>会社の全部門が学生を増やす計画の中で運営が進んでいる中、新型コロナウイルス感染拡大による、入国制限などの措置を受け、大きく入学学生の減少と影響を受けている。2018－2020年の3ヶ年中長期計画の最後の年として、最初の目標からも大きくずれが発生した1年であった。入学辞退、延期、また在籍者の途中退学と日本在籍を怖がった学生も多く発生。その部分で大きく予定と乖離した状況である。</p> <p>それらも含み、突然発生するリスクに対してはまだまだ後手となっているため、今後も起こりうる事業継続計画を早急に検討すべきだと考える。</p>	<p>本社の業務推進部が大量事務については効率的に行うことで事務の省略化を図ってきたことで事務局負担がずいぶん減った。業務の多様化も含め、一人多役ができるようさらに部内の職員育成を図りたい。</p> <p>また、なかなか終息しない、新型コロナウイルス拡大の状況下で来日せずとも取り組める日本語教育の提供を検討することが必須になると考える。来日できることを待ってくださる学生のためにも、今、提供できる様々な施策を試みるべきであり、更に新規の顧客獲得も積極的なアプローチをするべきであると認識する。当校は757名の増員を許可され、その体制を取るべく、人事も増強した。しかし、入学者減少による人件費の有効活用をさらにしっかりと計画に入れ、外部に対して出来ること、内部でやらなければならないことの精査をしっかりと検討し対応したいと考える。</p>

第1 設置者及びマネジメント

基準4 教育環境

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

4-1 校地・校舎

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-1-1 教育機関として適切な位置環境にあるか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて教育機関として適切な位置環境に設置している。	特になし
4-1-2 安定的に教育活動を継続するための校地校舎が整備されているか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて安定的に教育活動を継続するための	特になし

		校地校舎が整備されている。	
4-1-3 校舎面積は基準に適合しているか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	特になし
4-1-4 防災に対する体制は整備されているか	5	防災関係の備品は点検と設置を徹底している。 また、各教室や校舎の至る所に避難経路図を貼り、学生への周知に取り組んでいる。	昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により避難訓練の実施が困難であったが、今年度は早めの実施を計画し、しっかりと行うことができた。

4-2 施設・設備

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-2-1 教室・その他施設は基準に適合しているか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	特になし
4-2-2 教室内は十分な照度があり換気がなされているか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	特になし
4-2-3 すべての教室は、教育上必要な遮音性が確保されているか	5	遮音設備は施していないが、周囲が住宅地であるためとても静かであり、法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	特になし
4-2-4 授業時間外に自習できるスペースが十分確保されているか	5	どのフロアにも適宜机と椅子を設置し、自習できるようにしてある。また空き教室も開放し、自習できるスペースとして提供している。 また、現在東館1Fを自習室として学生に開放している。	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、自習室の利用は全面禁止している。

4-2-5 教育、学生数に応じた図書やメディアが整備され、利用できる環境になっているか	4	図書館にも多くの図書を準備し、いつでも学生が閲覧できる環境となっている。	学生が多く希望する、JLPT や EJU の対策書籍がまだまだ少ないため今年度増刷の計画を立てたが、学生減などを受けて、延期。今後様子を見て増刷を再度計画する。
4-2-6 視聴覚教材や ICT 教育の設備が整備されているか	5	全教室にプロジェクターを完備、また、ICT ルーム、ラーニングcommons設備などを完備している。	設備は完備しているが、まだまだ利用しきれていない現状があるため、積極的に授業に取り入れたいと考える。それぞれの指導レベルで何が出来るか事業計画に盛り込みながら検討する。
4-2-7 教職員の執務に必要なスペースは確保されているか	4	増員に伴い、教職員の数が増えているため、手狭にはなっているが必要なスペースは確保している。ただ、非常勤講師のスペースは十分とは言えない。	今後は東館、西館両方の有効利用を検討していきたいと考える。
4-2-8 学生数に応じたトイレが設置されているか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	特になし
4-2-9 法令上必要な設備等が備えられているか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	特になし
4-2-10 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形上であるか	5	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	教室内の窓で一部開かない窓、施錠できない窓がある。
4-2-11 バリアフリー対策が施されているか	4	一部対策がしきれていない部分がある。(東館と西館のトイレ)	建物自体の改修はなかなか難しいとは思いますが、今後必要に応じて検討していきたい。
4-2-12 校内の清掃状況は管理が行き届いているか	5	清掃業者とも常に状況の把握をし清掃状況を理解し、年間予定を立てて清掃を行っている。	学生満足度アンケートにおいても高評価をいただき、行き届いていると言える。また今年度においては消毒作業も徹底して行うことができた。

総括	課題及び改善内容
施設、設備については、勉強にふさわしいとていい環境であると思う。教室は広く学生にとってはいい環境であるが、職員スペースについては西館と東館をうまく組みたて、教職員をしっかりと配置して学生からの相談事項にいつも対応できるようにしていきたいと思っている。	非常勤講師の配置が狭いため検討する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、クラス数が減少したこともあり、当面はこの体制で行っても問題ない、という判断をしている。今後入国規制が解除され、学生数が戻ってきた場合に再度検討する予定。

第1 設置者及びマネジメント

基準 5 安全・危機管理

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

5-1 健康・衛生

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-1-1 学生の健康管理を担う組織体制があり、機能しているか	4	衛生委員会があり、毎月活動をしており、掲示物など学生への周知も昨年度より徹底している。 また学生には年に1度結核健診を行っている。	せっかく衛生委員会を開催するので、もうすこし情報共有の方法を検討したい。 学生の結核検診も開催時期によっては受診できない学生もいるため、開催時期、頻度についても今一度検討したい。
5-1-2 学生全員が適切な健康保険に加入しているか	4	留学ビザを持った長期生は100%加入させている。 しかし、短期生については自国の保険に加入させており、100%とは言えない。	短期生の保険加入については検討外としているので 今後はどのようにしていくか要検討。

5-1-3 感染症発生時の措置を定めているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の感染症とは異なり、新型コロナウイルス感染症のための新しい措置を模索してきたが、現在では運営可能な体制が整ったといえる。来年度の対応には大きい問題は生じないと思われる。 ・会社全体では危機管理マニュアル、災害発生時の基本対応基準書は制定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策に関するマニュアル制定などを着実に進めてきた。また、通常の感染対策を強化することで予防にも徹した。 ・個別の案件が多く発生するが、概ね混乱なく運営出来ているのがそれらを踏まえ、既存のマニュアル基準書の精査が必要。それに加えイレギュラー案件の対応検討が必要である。
------------------------	---	--	---

5-2 危機管理

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-2-1 危機管理体制が整備されている	3	各事業所の衛生委員が危機管理体制の整備・制定を準備している段階であったが、今回の新型コロナウイルス感染拡大を受け、こういったケースでの危機管理体制も不十分だと感じた。	学校現場での判断と社内判断が相違する場合があるため、今後は社内的にどういった対応をするのか、というマニュアル制定をしていくべきである。
5-2-2 火災・地震・台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所を定めているか	4	避難方法・避難経路・避難場所は定められており、学生には入国時オリエンテーションにて案内している。昨年度出来なかった避難訓練は今年度はしっかりと実施出来た。 また、各教室・や校内掲示板に避難経路図を掲示することで緊急時対応が誰でもできるようにした。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施回数、実施方法を検討する必要がある（入学時期が違う学生に対しての周知も含め） ・非常勤講師にも避難方法等を着実に伝え、対応可能な状態にする必要がある。
5-2-3 気象警報が発令された場合の措置を定めているか	4	その時の気象状況に応じて学校長が判断してはいるが、その判断基準が不十分である。	基準書はしっかりあるものの、もう少し詳細の基準を作るべき（例えば休校の際の警報レベルとか、電車が止まっている場合などのそれも含め）

5-2-4 災害等に対する避難訓練を定期的に実施しているか	4	昨年度の反省から今年度は避難訓練の計画を早めにて、実施出来た。	今後コロナ終息後は頻度・内容について再検討を図りたい。
5-2-5 防災用品が備蓄されているか	4	避難時のヘルメット・脱出用工具・ラジオのほか、災害用の備蓄（水・食料・防寒具）を校内に格納しており、また学生数、職員数に基づき必要最低限の食料、飲料用品を備蓄している。 しかし、ヘルメットなど緊急時にすぐ必要なものの設置場所など更に検討が必要である。	備蓄は在庫管理を徹底している。災害時の備蓄物の賞味期限の確認や電池の交換などは年 1 回点検を実施している。定期的に入れ替えを行っている。備蓄品の保管場所は今後要検討。

4

総括	課題及び改善内容
<p>毎年 1 度、計画をたて避難訓練を実施しているが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の防止のため中止したことを受け、今年度は早めに計画、実施が出来た。あと、災害時の防災用品の備蓄はしっかりとされているが、全社員のそれらの情報共有が徹底はしたものの、個人によって認識に差があるのが現状である。</p> <p>また、今回の新型コロナウイルス拡大防止の対策として、こうした世界規模の災害同様の事情が出たときのマニュアルがしっかり制定されておらず、その都度会議をして決めていった状況であった。この事例を無駄にすることなく、今後は現状の事例を精査し、災害時の初動を含めたマニュアルの制定と、それらの情報の周知徹底の仕方までを決めるべきだと感じた。</p>	<p>災害というと、天災などでの想定ばかりしてきたが、今回のコロナウイルスの感染拡大防止のいろいろな対応で、まだまだ認識と準備が不足しているのが浮き彫りになったことを痛感した。</p> <p>今後はコロナ時の事例をもとにいかにかにタイミングよく、どのように対策が講じられるかを含めた、マニュアル制定が必要不可欠だと感じた。</p> <p>また、実際、各個人の危機感の相違から重要視されないという、根本的な問題があると感じる。</p> <p>今後はいかに作成したマニュアルを職員に周知徹底するか、今一度、諸災害についての認識共有の場を作れるかと言うことも課題とし、検討していかねばならないと考える。</p>

第1 設置者及びマネジメント

基準6 法令の順守等

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

6-1 法令の順守

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-1-1 法令、設置基準等の順守と適正な運営がされているか	5	法務省 HP また（一財）日本語教育振興協会の基準に基づいてそれらの基準等の順守と適正な運営がされている。	特になし
6-1-2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	5	入学時に個人情報について公開の有無の許可を学生1人ずつから取得して、対策を行っている。また職員に対しても、教職員ガイドブックに掲載し、それについての研修も行っている。	一人ひとりにしっかりと認識させることで、流出を防いでいる。しかし個人の認識の違いで、業務中に机の上にはっきり個人情報が見える状態で放置されていることもあるため、今後もしっかりと対策していきたい。
6-1-3 入管・日振協・関係官庁への届け出、報告を滞りなく行っているか	5	届出、報告は滞りなく実施されている。	スケジュール化をしっかりと、遅延なく的確に出来るようダブルチェックをしている。
6-1-4 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	是正計画を作成し、各項目を検討はしているものの、なかなか進まない課題もある。プロジェクトチームを組むなどして更に是正を進めるよう取り組みたい。	今後も少しでも改善を図っていく予定である。
6-1-5 自己点検・自己評価の結果は公開しているか	5	公開している。	公開するだけでなく、不十分事項の改善を一つずつしっかりと図る予定。

総括	課題及び改善内容
せつかく時間をかけ自己点検・自己評価をするので、不十分事項については職員全員にしっかりと周知し、意識させるようにしたい。問題を共有することで、さらに向上できる項目もあるので、しっかりと改善を図れる体制を取りたいと考える。	新入社員も含めた職員全員への周知、徹底の方法と、さらにそれらの問題を一つでも改善する方法の再検討がさらに必要である。

第2 運営に関する事項

基準 7 運営全般

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

7-1 組織的な運営

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-1-1 短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されているか	5	年2回の全社会議、年数度の幹部会議を行い、各事業部ではその内容を職員会議で周知している。また講師ミーティングで非常勤講師にも共有を図ったりして、短期及び中長期の運営方針と経営目標は毎年明確化され、教職員に周知されている	定期的に情報共有することで、下位層職員にもしっかりと運営方針を理解してもらえよう、体制作りをした。ただ、目の前の仕事に忙殺され、会社の運営方針までしっかり理解されているかは、別問題であるため、今後はそれらについてもっと浸透できるような機会を検討したい。
7-1-2 管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされているか	4	管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされてはいるが、まだまだ口頭引継ぎ部分もあるため、今後も引き続き整備されるよう努力したい。	一つずつ書面化することで統一化を図りたい。

7-1-3 意思決定システムは確立されているか	5	自分の役職に見合った意思決定がなされている。	ほとんどのものが文書化出来ているが、全職員に今後はしっかりと浸透するよう努めたい。
7-1-4 予算編成が適切になされ、執行ルールが明確であるか	4	予算を立て、それについて予算乖離もされ、予算編成が適切になされ、執行ルールが明確である	想定できない支出ももちろん多いため、中長期にまたがり大きく支出するものの経営側との意思疎通をもっと図らなければならないと考える。
7-1-5 業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われているか	5	業務推進課の元、それぞれの業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的会議でしっかりと議事として出され、それに対し解決することが、組織的に行われている。	今後は各個人がジョブローテーションしても、滞りなくできるよう、さらに詳細化していき、新入社員にもわかりやすくできるよう努めたい。
7-1-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	SL から Campusmate-J にシステム変更を行い、2年が経過。安定運用できるようにマニュアルや仕様書などの制定が積極的に行われてきた。また、本部からの研修等に職員が参加し、効率的に業務にあたるような措置を図った。さらなる効率化を今後どんどん図れると考える。	大量のデータ管理などを業務推進課で一括して行うなど、さらなる業務改善を一斉に計れた。また、書類を整備し、それらが効率よく、かつ承認者がしっかりと承認できるフローを作ることにも出来ている。情報システム化に伴い、2021 度からは学生情報の収集や管理を本部に新設された学生サービスセンターで一括して行うこととなった。学生サービスセンターと現場がうまく連携できるよう努める。

7-2 納付金

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-2-1 検定料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付期日が明示されているか	5	納付金額は学則、HP、募集要項に、納付期日は年間スケジュールに明示されている	特になし
7-2-2 学費以外に入学後必ず必要になる費用が明示されているか	5	学費以外に必ず必要になる費用は明示されている。	特になし

7-2-3 関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されているか	5	関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている	特になし
--------------------------------------	---	-------------------------------	------

7-3 情報の共有化及び発信

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-3-1 外部の情報を積極的に入手し経営に生かす仕組みがあるか	4	経営陣及び一部の幹部職員は外部の経営戦略セミナー等に参加し、経営に活かしている。	幹部職員が外部の経営企画等のセミナーに参加する機会が少ない。今後は情報の共有の仕方の検討と職員の意識の持ち方の再指導を行う
7-3-2 内部の情報共有を効率的に行う仕組みがあるか	5	週に一度の職員会議で情報を共有したり、場合によっては社内メールでリマインドしたりと、各自が意識して情報共有するよう努めている。	職員会議は定例となっているため、問題はないが、情報共有はそれぞれが意識をしないと途絶えるので、今後も意識して継続に努めたい。
7-3-3 入学希望者・在籍者及び関係者が理解できる言語で、適切に情報提供をおこなっているか	4	HP などは多言語化し、どの国籍の学生も理解できるよう努めているが、在籍者への対応は少数国籍の学生に対応する言語対応職員が全員準備されているわけではなく、グループ内他部署に助けをもらったりしている現状がある。	言語対応職員のOJTを随時行い、知識レベルを統一していかなければならないこと、情報提供においては今後もしっかりと言語対応をしていく予定である。
総括		課題及び改善内容	
幹部以上が知り得た外部情報などをいかに効率よく現場に共有できるか、また、情報を受け取った職員がさらにその部下に情報共有できるかが個人の努力によっているところは、何かもう少し機能的なことを検討してもいいかもしれない。しかし、情報を共有される方の意識もしっかりと持ってもらうことで、その情報がどう自分に、学校に影響が出るのか、ということをつかれない新入社員もいるので、その辺りが理解できるようなOJTも検討した方がいいか考える。		情報のメールの件数が多くなり、そのメール自体をしっかりと読めないということも発生するため、職員会議だけでなく、定期的にそういった情報の共有できるような機会を検討すべきかと考える。	

第2 運営に関する事項

基準 8 学生募集

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

8-1 募集方針

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-1-1 理念・教育目標に沿った学生の受入れ方針を定め、年間募集計画を策定しているか	5	ISI グループの教育理念・教育方針・アドミッションポリシー等を募集要項の巻頭に記載し、かつ HP 等にて学生・代理店・その他提携機関へ広く周知のうえ、適切な募集計画のもと受け入れ態勢を確保している。	特になし
8-1-2 募集定員の範囲で募集活動を行っているか	5	各学期・各校ごとに修了者予測および在籍者数をモニタリングし、関連諸規制に従い、適正に定員の設定・管理をおこなっている。以って、定員を超過しない範囲での募集活動を徹底している。	特になし
8-1-3 募集担当職員は、学校の情報を正しく認識した上で、入学相談を行っているか	5	募集担当職員は学校との定例マーケティング会議や研修を通して、プログラムやコース内容を含め、正確かつ最新の学校情報の入手・活用・開示に務めている。学生への入学相談の際は、わかりやすく誤解を与えない様、各言語にて発信している。	特になし

8-2 募集活動

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-2-1 教育内容・教育成果を含む、最新かつ正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語が開示されているか	5	最新かつ正確な学校情報は、多言語の募集要項（12言語）・HP・リーフレット・SNS・個別面談・オンライン説明会等で該当言語の運用能力がある外国籍スタッフにより学生・代理店・その他提携機関が開示・説明している。	特になし
8-2-2 求める学生像を明示しているか	5	HPおよび募集要項・学生用スタートブック等にて ISI の理念・教育方針を明示している	特になし
8-2-3 応募資格及び条件を、入学希望者の理解できる言語で明示しているか	5	募集要項・HPにて、各言語で明示している。（12言語）	特になし
8-2-4 募集活動を行う国・地域の法令を順守した募集活動を行っているか	3	消費者契約法・景品表示法・個人情報保護法等関係法令・諸規則・主務官庁の通達および企業理念・コンプライアンス規程等に則り、法令遵守を徹底した募集活動をおこなっている。	市場の拡大・提携代理店の増加に伴い、海外代理店の法令順守管理に限界がある。特に WEB サイトにおける著作権管理は今後徹底して行う。
8-2-5 海外の代理店等に、最新かつ正確な情報提供を行っているか	4	HP・リーフレット・SNS の活用や学生管理システム（CamJ）による情報共有、ウェビナー等による相談会の開催など、コロナ禍にあっても、最新かつ正確な情報の提供をおこなっている。	定期的な海外出張対応から WEB 会議による説明会へと変わり、ウェビナーや動画を活用してわかりやすく丁寧な説明を行っている。
8-2-6 海外の代理店等の行う募集活動が、適切に行われていることを把握しているか	3	海外代理店や提携機関との業務委託契約や現地の関連法令に基づき、適切に事業運営をなされているか、メールや SNS 等を活用して日常的に連絡をとり、またオンライン会議等を通じてモニタリングしている。不適切な業務運営が認められる時は、契約内容にもとづき取引を停止している。	海外代理店の責任者とオンライン会議等でコミュニケーションの機会を増やし募集活動における改善点に関して提言を行う。

8-3 入学選考

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-3-1 入学選考基準及び方法が明示されているか	5	募集要項で、アドミッションポリシーを明示のうえ、書類や面接等による選考基準を多言語で明記し、これを学生・代理店・提携機関等に通知している。	特になし
8-3-2 学生情報を正確に把握し、提出書類により信憑性の確認を行っているか	4	共有の営業支援ツールおよびファイルサーバーに入学選考に関するデータベースを保存し、提出書類は母国語対応も含め、複数のスタッフで確認を行っている。	対応できない言語では日本語の翻訳の添付をつけさせ、現地での公証を取得する様にしている。
8-3-3 入学選考を行う体制が整備されているか	5	入学希望者とは母国語または英語でのコミュニケーションを取り、Web 会議システム等を活用し、募集部門のスタッフが入学選考を実施している。	特になし
8-3-4 受け入れるコースの教育内容が、志願者の学習ニーズと合致することを確認しているか	5	コース内容は募集要項（スケジュール・クラスの規模・教授方法・費用）、ホームページ（その他）に掲載している。入学後は学生生活スタートブックにて開設授業科目を確認することができる。	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>基準 8「学生募集」については、上記評価の通り、概ね取り組みができていえる。ISI グループ 校の募集に関しては本部マーケティング統括部が担当している。厳格な定員管理のもと、年間募集計画を策定し、直接または代理店経由での募集活動を推進している。学生の入学選考は、学生の履歴書・就学理由・日本語学習歴・日本語能力・経費支弁能力を様々な提出書類および面接により精査・選考を行い、また学</p>	<p>課題</p> <p>①募集活動は世界情勢に大きく影響される為、受入れ方針、募集数、在籍者数のタイムリーかつ適切管理が必要であり、提携代理店との情報共有や更なる細かいコミュニケーションが必要となってくる。</p> <p>②代理店における弊社の情報が古いままであったり、間違った情報が流出しないよう、</p>

<p>生の受け入れの観点では、学校運営基準に照らし合わせ、当校の教育理念を理解し、勉学意欲が強く、日本語学習に対して明確な目標を持つ優秀な学生を、分け隔てなく世界の様々な国・地域から受け入れている。</p> <p>本部マーケティング統括部の管掌のもと、中国（大連）に直営事務所を運営し、東京・大連を拠点に入学選考および申請業務を一元管理で行っている。海外代理店や提携教育機関との業務提携において、その経営状況・営業免許・事業規模・募集実績・募集販路・営業推進態勢など総合的に評価・判断し、厳選して取引先を選定し、代理店契約締結後に学生の受入れを開始している。</p> <p>入学希望者に配布する募集要項では入学条件を明記しており、ホームページでは学校の教育成果、留学している学生のリアルな姿として、在校生の成長の過程や卒業生の進路や活躍を学内に掲示し、また Web サイトや SNS で発信することで、国内はもちろん、海外からでも十分に学校生活をイメージでき、入学後のミスマッチが起こらないように心がけている。</p>	<p>定期的に代理店に説明し、代理店のホームページや営業資料を確認していく必要がある。</p> <p>③海外の代理店や教育機関の取引数が多く、現地訪問が叶わない状況下では、全ての情報の確認・把握が困難であり、提携代理店を効率よく精査をする仕組みが必要となる。</p> <p>④コロナ禍において入国制限等に伴う未入国者に対しては、オンライン授業を提供し、キャリアプランに影響が無いようにしている。また、入国時期等についても正確な情報をタイムリーに学生に提供し、あらゆる不安を払拭する様な対応を行っている。</p>
---	---

総括	課題及び改善内容
<p>教育成果に関しては、学則をもとに適切に実施を行い、学生への通知もされている。外部試験の結果も団体受験を行うことで回収に努めている。在学時に関する教育成果の把握は行えているものの、学生の卒業後の進路、社会的評価の把握は難しく、できていない状況である。</p>	<p>学生の卒業後の状況の把握はグループ全体でどのように実施していくのかの方針をまず決定し、その後対応を考える必要がある。</p> <p>SNS を利用した交流会、会議システムを活用した同窓会等いろいろな手段が取れるが、運用に関してはきちんと規定を決めておく必要があるため、すぐにの実施は困難である。</p>

第2 運営に関する事項

基準 9 教育活動

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

9-1 教育計画

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-1-1 理念・教育目標に合致したコース設定が行われているか	5	日本語教育機関の告示基準に適合した学校であり適切なコース設定ができている。	なし
9-1-2 教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされているか	5	レベルごとに学習目標の目安の設定を行い、カリキュラムに沿って授業のスケジュールを管理している。	なし
9-1-3 レベル設定に当たっては、国内でまた国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしているか	5	JLPT・CEFR に則ったレベル設定を行っている。	なし
9-1-4 教育内容及び教育方法について、教員間で共通理解が得られているか	5	コースカリキュラム、レベルは教職員ガイドブックに記載し、教職員全員に配布している。定期的に育成研修を実施し教育内容や教育方法の共通理解を図るとともに教員全体の教授力を向上させている。	なし
9-1-5 カリキュラムは体系的に編成されているか	4	教育目標実現のため、JLPT・CEFR に則ったレベル設定を行いコースカリキュラムを体系的に編成している。	ほとんど体系的に編成されているが、精度を向上させるために教育推進部と合同で精査中である。

9-1-6 教育目標に合致した教材は選定されているか	4	本部機能である教育推進部を中心にグループ各校の職員と共同で教育目標、カリキュラムに合致した教材の選定を行っている。	ほとんどの教材は教育目標に合致したものが選定されているが一部の教材について教育推進部と合同で見直しを行っている最中である。
9-1-7 補助教材、生教材を使用する場合は、出典を明らかにするとともに、著作権法に留意しているか	4	著作権に関しては入社前に著作権に関する研修を行い、ISI オリジナルの教材も作成するなど著作権保護の徹底を周知はしている。	著作権法について非常勤講師も含めて、完全には徹底されていないのが今後の課題となっている。研修を検討して必要がある。
9-1-8 授業に関する学習リソース及び情報を、授業開始までに教員に提示しているか	5	授業開始までにクラスごとに担当する教員に授業スケジュールおよび学習リソースを提示している。	なし
9-1-9 教員配置が適切になされているか	5	クラス編成に際し、教務主任が全教員の経歴、教授可能レベルを踏まえ適切なタイムテーブルを作成している。	なし

9-2 実施

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-2-1 授業開始までに学生の能力を筆記試験等により判定し、適切なクラス編成を行っているか	5	新入生はプレイメントテスト、在校生はアチーブメントテストと期末テストの結果によりクラス編成を行う。新入生に関しては授業開始後、レベルが合わないと感じる学生に対しカウンセリング、必要に応じて再テストを行いクラス変更を認める場合もある。	なし
9-2-2 教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達しているか	5	クラス編成後は各担任が学生の情報を把握し、必要に応じてクラス担当教員に伝達を行っている。	なし
9-2-3 決定したシラバスによって授業が行われているか	5	カリキュラムに沿ったシラバス、シラバスに沿った日々の授業スケジュールを作成し、授業スケジュールに基づいて授業が行われている。	なし

9-2-4 修了の要件が定められ、学生の理解できる言語によって明示されているか	5	修了の要件が定められ学生生活スタートブックに記載され日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語の5言語で記載している。	なし
9-2-5 教育内容に応じて教育用機器を活用しているか	5	すべての教室にPC、プロジェクタは設置してあり活用して授業を行っている。	なし
9-2-6 授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録しているか	5	出席に関しては紙媒体と電子媒体の2種類で各時間に確認を行っている。電子媒体では学生自身が自分の出席状況をすぐに確認することができ、また学生の出席率の速やかな収集、3日連続で欠席をした場合自動で学生へ通知を行うなど迅速な対応が可能である。授業記録に関しては紙媒体でその日の授業内容等、引継ぎ事項を明記し保管している。	なし
9-2-7 理解度・到達度の確認が、適正な時期に行われているか	5	各課のアチーブメントテスト、学期ごとの期末テストを行うことで理解度の確認をするとともにレベルごとの到達度テストも行い、学生の日本語レベルの把握をしている。	なし
9-2-8 学生の自己評価を把握しているか	4	年2回(6月12月)に満足度アンケートを行っているが、アンケート項目として学生自身の自己評価を行う項目がある。	個人ではなくクラスごとで集計されているため、学生個々の自己評価の把握は難しいのが現状である。学生個々の評価も把握できる集計と分析を検討したい。
9-2-9 個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援が行われているか	4	個別学習指導は担任と副担任がその都度対応を行っている。	担任と副担任は学期ごとに変わるため年間通しての相談窓口として学習支援担当者を置くことを検討。
9-2-10 特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けているか	3	特定の支援、特に精神面の支援に関してカウンセラーなどの専門家は常駐はしていないが、場合によっては産業医との面談、地域の病院を紹介するなどの対応を行っている。	今後の状況により、必要であれば専門家の常駐を検討する。

9-2-11 授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処しているか	5	各相談や苦情に関しては即時対策チームが組み込まれマニュアルに沿いながらも個別案件に対し適切に対応している。経緯や結果は社内共有システム及び学生データベース上に記録し、社員間で共有できている。	なし
9-2-12 学習内容、時間割、成績等、教育に関する学生の留意点と、相談担当者が分かる文書を入学時に学生に配布しているか	4	学習内容、成績、教育に関する学生の留意点に関しては学生生活スタートブックに記載があり年度ごとに配布している。	授業の時間割は1か月ごとに教室に掲示している。相談担当者が分かる文書は特に作成していない。今後必要であれば何等かの形で作成と周知を考える。現状は事務所の窓口相談に来れば担当者が対応している。
9-2-13 留学生生活や入管法上の留意点と、それらに関する相談担当者が分かる文書を入学時に配布しているか	4	留学生生活、入管法上の留意点に関しては学生生活スタートブックに記載があり年後ごとに配布している。	相談担当者が分かる文書は作成していないため、今後必要であれば何等かの形で作成と周知を考える。現状は事務所の窓口相談に来れば担当者が対応している。
9-2-14 JLPT、EJUの指導体制はあるか	5	授業中にかリキラムに沿って JLPT、EJU（日本語科目）の対策としての授業が行われている。中級レベル後半からは週に2回の選択クラスがあり JLPT,EJU（日本語科目）の集中対策クラスも選択することができる。	なし

9-3 成績判定

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-3-1 判定基準及び判定方法が明確に定められ、開示されているか	4	判定の基準と方法は学生生活スタートブック、教職員ガイドブックに明記し、開示をしている。	判定基準に関して会話や作文については、ややあいまいで、担任依存になっている部分もあるため現在教育推進部と各校共同で判定基準を改めて作成している。
9-3-2 成績判定結果を的確に学生に伝えているか	5	学生はオンラインシステムを通し在学中いつでも成績を確認できる。	なし
9-3-3 判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証しているか	3	定期的な検証はできていない。	教育推進部と共同で、検証方法についても検討していく予定である。 学生の成績を統計処理した分析などはできていないため、実施の時期や内容、方法を検討していく必要がある。

9-4 授業評価

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-4-1 授業評価を定期的実施しているか	5	年 2 回満足度アンケートを実施し、授業見学、評価、フィードバックを実施している。	特になし

9-4-2 評価体制、評価方法及び評価基準が適切に定められ実施されているか	4	授業評価は管理部が作成した評価基準をもとに実施を行っている。	今年度教務職の人事規定の改訂があったが、教員のレベルに関係なく一律の評価基準であるため、レベル別の評価基準の作成など変更の検討が必要である。
9-4-3 学生による授業評価を定期的に行っているか	5	年2回満足度アンケートを実施し、教員の評価も行っている。またこの結果を各教員に紙面で配布し、問題がある場合は授業見学を実施している。	特になし
9-4-4 評価結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されているか	5	評価結果を分析し、教育推進部とともに教育能力向上のための研修に組み入れるなどの対応を行っているが、教育内容に関してはスムーズに反映がし切れていない。	特になし アチーブメントテストや期末テストは適切な時期にできてはいるが、学生の成績を統計処理した分析などはできていないため、実施の時期や内容、方法を検討していく必要がある。

総括	課題及び改善内容
<p>教育計画については、日本語教育機関の告示基準に適合した学校であることから、コース設定、教育目標に沿ったカリキュラム、レベル設定に関しては適切に運営ができていると思われる。授業運営に関しては、学生へは学生生活スタートブック、教職員は教職員ガイドブックを年度ごとに作成し、配布をすることで周知できている。HPにも記載をすることで、広く世間にも周知ができていると考えられる。</p> <p>実際の教育実施についても、学生生活スタートブック、教職員ガイドブック、HPにて広く周知していることがいわば公約ともなり、日々の授業や学生への管理、相談、対応が公約どおりになされていると思われる。</p> <p>成績判定についても学生生活スタートブック、教職員ガイドブック、HPに記載があり、そのとおりに判定ができている。学生へも結果は通知しており透明性が保たれている。</p> <p>授業評価や評価体制等の制度は確立しており、各教員へフィードバックも行われている。学生が行う満足度アンケートも外部業者に委託し、分析を行いその問題点改善点を共有するための会議も実施されている。</p>	<p>教育計画について、特に著作権保護法へのコンプライアンス意識をさらに高める必要がある。常勤講師のみならず非常勤講師にも広く社内研修などを通して意識を高め、法律を守っていく必要がある。</p> <p>教育の実施について、教室内にはすべてパソコンとプロジェクタを完備しているが、その他の教育機器はない。以前書画カメラの導入の計画もあったが、現在はパソコンとプロジェクタで代用している状況である。今後も例えば電子黒板や書画カメラ、そのほか語学学習に必要な教育機器があれば、購入や活用を検討していく必要がある。</p> <p>学生の自己評価の把握が個人ごとにはできていない状況であるため、今後は個人の自己評価を把握し、教育活動に活かしていく。</p> <p>学生への周知内容として、学生生活スタートブックにて、学習に関すること、留学生活に関することは周知できてはいるが、各種担当者の周知はなにかを配布するという形では行っていない。現在は、事務所の窓口に来れば職員の内誰かが対応し、対応できることに関してはその場で対応している。内容によって、別途対応者につないだり、時間をとつ</p>

問題が生じた教員に関しては必ず授業見学を行い、改善点の提案をし教授力向上に努め、また研修にも内容を反映させている。

で確認等を行ったりするなどして、学生に対応している。メールも職員個別のメールアドレスの他に、事務局職員全員が把握できるメールアドレスもあり、なにか相談ごとがあればそちらのメールに送ることができるようになっている。そのため、特に担当者を周知しなくても、対応はできている状況ではあるが、案件ごとの担当職員の顔を周知する工夫は今後していけばさらに学生も相談しやすくなるだろう。

成績判断について、判断基準が定められてはいるが、細かい基準については担任に依存していることもある。そのため、期ごとに担任が変われば微妙に判断基準がずれることも発生しうる。基準のさらなる透明性と妥当性は今後改善していき、定期的に見直しを図りよりよい教育活動としていきたい。

評価に関しては体系立てたものが確立しているが、授業見学のシートなどしばらく改定されず、レベルによってみる観点を変えるなどの工夫がされていないため、その修正検討と(井)授業見学後の問題点をどのように改善していくのか、またその成果など評価後の改善に関して見えにくいところがある。

教育推進部を中心に視覚化できる改善プログラムを検討していく必要がある。

第2 運営に関する事項

基準 10 学生支援

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

10-1 支援体制

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-1-1 学生支援計画を策定し、支援体制が整備されているか	4	滞在先の提供、日本人との交流、またアルバイト情報など学生の求めるサービスの提供を学生の目線で検討し、情報提供しているが業務フローなどまだ完全ではない。	それぞれの業務フローや諸手続き書類などの作成、保管、運営が各個人でなされており完全ではないため、体系的に業務精査し、どの担当者も行えるよう精査していきたい。
10-1-2 休日及び長期休暇中の学生対応はできているか	2	円町寮だけは管理人がいるため 24 時間対応が来ているが、その他は緊急時対応が曖昧である。	全校でトラブル時に対応できるカウンセラーの設置を検討できるといい

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-2-1 入学直後のオリエンテーションを実施しているか	5	入寮日翌日にオリエンテーションを実施している。また途中入学の学生も初登校日に必ず行っている。	オリエンテーションの内容は随時検討し、改善していくべきである。
10-2-2 生活に関するオリエンテーションを実施しているか	5	入寮日翌日にオリエンテーションを実施している。また途中入学の学生も初登校日に必ず行っている。	オリエンテーションの内容は随時検討し、改善していくべきである。

10-2-3 地域の国際交流や、地域活動に参加しているか	5	地域や団体からお誘いのある国際交流は積極的に参加するようにしているが、受け身なので今後は外部情報もこちらから調べたりしてさらに積極的な参加を促したいと考える。	アクティビティ担当をしっかりと決め、活動を始めたので、今後はそれらも業務フローをしっかりと行い、定期的な活動参加がして行けることを目指す。
10-2-4 地域社会に貢献する活動は行っているか	2	例年 8/16 の大文字焼きのときの学校開放・カフェの解放などを行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から活動を自粛した。 また近隣の小学校と繋いでくださる近隣の方が声をかけてくださり、年に一度は一部の学生が小学生との交流に参加しているが、こちらも活動自粛となった。	今後は、コロナ過の中でできる地域貢献を検討する必要がある。 また、今までは地域の学校や業者から声があった場合のみボランティアなどの参加を行っていたが、今後は積極的に当校から発信できるよう検討していきたい。 別途、教室貸し出しなど、新たな地域とのつながりも検討していく。

10-3 生活面における支援

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-3-1 住居支援を行っているか	5	4つの寮を持ち学生に提供している。	今現在は寮も満室になっていないが、今後学生増で満室になることになると想定されるため、寮を退寮する際の紹介なども検討していく予定である。
10-3-2 アルバイトに関する指導及び支援を行っているか	5	希望する学生への紹介、面接指導、履歴書指導など、レベルに合わせて随時行っている。	求人、紹介についての業務フローは次年度精査し、もっと効率的にできるようにすることを検討している。
10-3-3 交通事故等の相談体制が整備されているか	5	入学オリエン時に学生には必ず相談してくるよう伝えられている。	なし

10-3-4 定期的に健康診断を実施しているか	4	年に1度、在籍学生に対して結核検診を検診車を学校に呼んで行っている。	実施時期に在籍していなかった学生が、さらにその翌年になることもあるため、コストの面も含め実施時期、回数については、さらに検討が必要。
10-3-5 学生全体の生活状況について定期的に調査しているか	4	3か月に1度必ず学生調査票にて調査している。またしっかりとした学生管理を入管から求められているので業務フローを確立し今年度から事務局による生活相談のための個人面談を実施している。	事務局の生活相談面談の内容を精査し、必要なタイミングに必要な事柄をしっかりとカウンセリング出来るような検討を行いたいと考える。
10-3-6 その調査結果に対する裏付け確認は適正に行っているか	4	住所変更などは在留カードからしっかりと確認作業を行っているが、アルバイトの実態調査は、雇用契約書の提出、給料明細の提出等で出来る限り確認するように努力した。	今現在は、本当に詳細のチェックが出来ているのはビザ更新時のみであるため、今後は通常の事務局による生活指導面談の時にも徹底して調査出来るような体制と業務フローを確立したい。

10-4 進路に関する支援

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-4-1 進路指導担当者が特定され、指導体制が有効に機能しているか	4	本部でキャリアセンターを設け、そこから学校に進路指導担当者が出向し進路指導の指揮を執っている。京都校は今年度から本格的に実施を開始した。また、学校職員からも進路指導担当者を置き、キャリアセンターと学校職員の担当者を中心に担任も含め進路指導を行っている。	キャリア担当を設置した初年度となった。京都校の特徴をしっかりと出せるよう、関西方面の進路に焦点を当て、情報収集と学生への提供に努めてきた。コロナ禍であるという事情もあったが、学生に対して今後はキャリア担当設置のさらなる認知度の向上を図りたい。 ・具体的に年間計画に基づく進路指導をすることで

			<p>進路決定の遅れを回避、1年間の業務内容をしっかりと分析、精査することで年を追っての成長をしっかりと図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の分析、今後に活かす ・初年度は教務職の進路担当や担任との業務のフローや情報共有の仕方などがあいまいになってしまったりしたため、来年度以降へ向け、しっかりとフローを作成する。
10-4-2 学生の進路希望を把握し、指導担当者間で情報が共有されているか	5	<p>面談の結果は学校のシステムに保管され、教職員はすべて閲覧できるようになっているため、対応者が変更しても一貫した進路指導が実施できている。非常勤講師に関しては必要な情報を担任が共有している。</p>	特になし
10-4-3 進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にあるか	5	<p>西館の図書ブースと東館の図書ブースに進路に関する資料を設置し、学生が自由に閲覧が可能になっている。最新情報はキャリアセンターからも配布されている。</p>	特になし
10-4-4 入学時からの一貫した進路指導を行っているか	5	<p>卒業までに最低4回は必ず担任が個別進路面談を行いシステムに保存するため、担当者が変わっても一貫した指導が可能</p>	特になし
10-4-5 EJU、JLPT、BJT 等の受験指導体制は整っているか	4	<p>EJU、JLPT に関しては選択授業で対策を行っている。カリキュラムも JLPT に関しては教育推進部の主導のもと体系立てて構築を行っている。</p>	<p>合格率、高得点率の向上のため、今後も改善が必要であり、また特に EJU に関しては教育推進部のもとでカリキュラムを再構築する必要がある。BJT は現在実施していない</p>
10-4-6 大学学内試験対策の指導体制は整っているか	1	<p>学内試験に関しては、学生からの質問に答える程度の対応のみになっている。</p>	<p>キャリアセンターを中心に大学学内試験の傾向と対策をまとめ、特別講座等を開催し対応をしていく必要があるがどうかという根本的な協議を今後はして行かねばならない。</p>

10-4-7 受験時、就職時の面談指導の体制は整っているか	5	キャリアセンターの設置により、担任の指導に加え、キャリアセンターからの指導も可能となった。	担任の空いている時間での対応になるため、キャリアセンターの進路指導担当者による随時の面接練習も随時実施が出来た。 反対に担当者が増えたことにより、担任、キャリアセンター、副担任の業務分担、情報共有の方法については今後も検討が必要である。
-------------------------------	---	---	---

10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-5-1 研修受講等により、最新の情報収集が出来る体制がとられているか	4	日振協の事務研修会を始め地域で行われる研修会へは全部参加をし、職員に情報共有している。また教務に対しても研修会を行った。	ビザの研修を始めとした教務に対しての研修会は非常勤も含め定期的に行うことができた。今後はその他の在籍管理研修なども検討していきたい。
10-5-2 入管法上の留意点について、学生への伝達・指導等を定期的に行っているか	5	入管法上の留意点について、学生への伝達・指導等を定期的に行っている。また出席率の悪い学生などは個別に対応しており、しっかりと入管法の在籍管理については周知している。昨年課題とした、学生への指導頻度については事務局の生活面談を定期的に入れることでその指導も同時に行うよう徹底した。	面談内容については職員の知識の差が指導に出ないよう、通常から職員研修なども行い、定期的に運用できるよう、今後はしっかりとやっていきたい。担当者のスキルアップ・カウンセリング力向上も図っていきたい。
10-5-3 在留に関する学生の最新情報を、正確に把握し管理しているか	5	在留期限、一時帰国、修了者・退学者の進路等、在留に関する学生の最新情報を定期的に把握管理している。	今後も怠ることなく常に実施していく。
10-5-4 在留上問題のある学生、及び問題になりうる学生の指導を個別に行っているか	5	出席不良者をはじめ、問題のある学生及び問題になりそうな学生に関して個別面談を実施している。また資格外活動の在り方についての指導も別途資	資格外活動については、さらに調査頻度もあげしっかりと学生指導ができるよう、業務フローも同時に年間スケジュールに落とし込み、しっかりと計画的にできるよ

		料を作成しており、問題学生に対しては指導している。	う、再検討したいと考えている。
10-5-5 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組みを、継続的に行っているか	5	年 4 度の学生調査と随時行う個別カウンセリングで、生活状況の把握と、心に持つ悩みをなるべく聞くよう心がけている。欠席・遅刻が多い学生にも同様。	入学時以外にもこれら犯罪等を発生させないためのオリエンテーションなど随時期の途中にもできるよう再検討したいと考える。
10-5-6 過去 3 年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていないか	4	過去に事例などもしっかりと指導し、昨年度は発生していない。未然に防ぐために個別の面談で十分に説明している。	昨年はしっかりとした管理ができたように思うが、過去の教訓を受け、発生させないためにも学生指導の方法を定期的に何かできるような仕組みの検討も必要だと感じる。また、アルバイトが多様化しているのでそれらの知識を担当者がしっかりとつとめ、それに合わせたカウンセリングが出来るように体制を整えていく。 引き続き個別面談も利用しながら学生への生活指導、また職員の情報回収や知識の植え付けの徹底を図っていく予定。
10-5-7 除籍、退学、修了、卒業で帰国予定となった学生の帰国確認を適時行い、それら出国確認の書類を適正に管理しているか	5	全修了・卒業生に対し、確実に帰国確認（失効した在留カード、パスポートの出国印の提出）と進学確認（進学先の学生証の提出）を必ず全員している	今後も徹底して全学生からの書類の回収、管理徹底を行う予定である。

総括	課題及び改善内容
<p>学生に対する、支援、指導は学籍管理上、要となっているところでもあるので、しっかりと学校規則、入管法の説明を行いながら、理解してもらい健全な学生生活を過ごしていただけるよう、全面的に支援していかねばならないと考える。生活に不安があると、確実に学校の授業への参加率が落ちるため、この辺り、学生の気持ちもしっかりと理解しながら、適切なカウンセリングもできるよう、職員の知識レベルも向上させ、また、代理店も</p>	<p>学生指導の際の職員のスキルの向上を今後研修などで意識的に改善していく努力をした。</p> <p>入管法も時代と共にいろいろと変更になってきているため、それらの知識を時代にも合わせて学生が将来困ることの無いよう、計画的に指導していけるようにしていきたい。</p>

含めた多方面からの支援を心掛けたいと思う。
 また昨年課題としていた、問題のない学生に対しても適正指導、管理の部分も事務局が定期的に生活面談をすることである程度解決を図ることができた。

第2 運営に関する事項

基準 11 教育成果

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

11-1 成果の判定

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
11-1-1 進路及び卒業・修了判定が適切に行われているか	5	各学期ごとに行われるアチーブメントテスト、期末テストをもとに学生の進級、卒業・修了を決定している。 また、卒業判定に関しては出席率の基準も設けており、学校生活スタートブックへの記載をし学生へ通知している。	特になし
11-1-2 EJU、JLPT 等の外部試験結果を把握し、適切に管理されているか	5	団体受験を促すことで学生の試験結果を把握し、管理を行っている。 個人出願の学生には担任が結果の回収を行い、多くの学生から結果が回収できるように努めている。	今後は一部団体受験を促さない（EJU）ことも決定する中、個人出願の学生の結果の回収をどのようにしていくのか、方法を検討したい。

11-2 卒業生の状況の把握

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
11-2-1 卒業生の状況を把握するための取り組みを行っているか	3	卒業後、すぐの進路先の情報は確実に把握するように取り組んでいるが、卒業後 1 年以上経過すると学生とのつながりがなくなってくるため、把握ができていない。	卒業した学生との交流をどの程度まで持つべきであるかなど検討事項が多い。1 校のみでなく、他のグループ校も踏まえて検討していく必要がある。
11-2-2 卒業後の進路を把握しているか	3	同上	同上
11-2-3 進学先、就職先等での状況や、卒業生の社会的評価を把握しているか	3	進路先の学校や、学生からの情報は得たら共有はしているが、学校から主体的に情報を集めてはいない。	同上

総括	課題及び改善内容
<p>教育成果に関しては、学則をもとに適切に実施を行い、学生への通知もされている。外部試験の結果も団体受験を行うことで回収に努めている。在学時に関する教育成果の把握は行えているものの、学生の卒業後の進路、社会的評価の把握は難しく、できていない状況である。</p>	<p>学生の卒業後の状況の把握はグループ全体でどのように実施していくのかの方針をまず決定し、その後対応を考える必要がある。</p> <p>SNS を利用した交流会、会議システムを活用した同窓会等いろいろな手段が取れるが、運用に関してはきちんと規定を決めておく必要があるため、すぐにの実施は困難である。</p>

「出入国及び難民認定法」内の日本語教育機関の告示基準の改定により、日本語教育機関の「学校評価」が義務化されたことを受け、教育の質保証・向上に資するという観点から本校においても「学校自己点検・自己評価報告書」を作成した。

平成30年度の報告書に関しては、平成29年度と同様に日本語教育振興協会の「日本語学校における学校評価ガイドライン」を参考に学内に設けた委員会で議論を重ねた結果、以上の通り自己点検・自己評価報告書を作成した。

ISIランゲージスクール京都校自己点検・自己評価報告書を作成するにあたり学内に設けた委員会のメンバーは以下のとおりである。

令和3年 4月

ISIランゲージスクール 京都校自己点検・自己評価委員会

校長	荻野 正昭
副校長	井尾 美穂
教務主任	関根 真奈美
教務チーフ	佐野 友里恵
教務	根岸 美和・吉田 有里・大河原 真紀・花見 さやか
事務局	今川 茜伊
海外入学相談センター	中村 知弘